事務事業マネジメントシート(平成22年度実績と平成23年度計画)

平成23年10月14日更新

事務事業名	ごみ収集事業	☐ ﾏﾆﾌｪｽﾄ関連	☐ 全庁横断課題関連	☐ 集中改革ﾌﾟﾗﾝ関連

総合計画体系							
	政　策	2	緑豊かな環境と共生するまちづくり	所属部	市民部	課長名	上山　幸顕
	施　策	8	廃棄物の抑制とリサイクルの推進	所属課	環境衛生課	担当者名	齋田　奏子
	基本事業	22	リサイクルの推進	所属班	環境衛生班	(内線)	1143

予算科目	会計	款	項	目	事業連番	法令根拠	廃棄物の処理及び清掃に関する法律　合志市廃棄物の処理及び清掃に関す	成果優先度評価結果	⑨
	一般	4	2	1	10188			ｺｽﾄ削減優先度評価結果	①

終了､開始年度	☐ 22年度で終了　☐ 22年度から開始	事業期間	☐単年度のみ　☑単年度繰返　(開始年度　18　年度) ☐期間限定複数年度　(　～　年度)

★事務事業の概要（具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述）

【事業の内容】 (開始した背景･きっかけ･今後の状況変化を含む)	昭和60年にごみ収集が組合から市に移管されたときに直営で収集を行うよりも業者委託が経費の削減ができるということで開始した。ごみ収集業務を業者に委託し、所定の場所に排出されたごみを収集運搬する。ごみの分別の種類が増加した。（H18年度　15種類）人口増によりステーションの数が増加した。
【業務の流れ】	業者選定、見積り徴収、業者決定、契約事務、請求書受付、量の照合、支払事務、廃蛍光管収集用ダンボール箱設置、拠点収集所巡回整理、廃食用油巡回整理
【主な予算費目】	需用費、委託料、役務費
【意見や要望】 関係者(住民､議会､事業対象者､利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？	住民より拠点収集所を増加して欲しいとの要望がある。住民より違反ごみが出してあるとの通報がある。議員からリサイクルボード、ストックヤード等の提案があった。

1　現状把握の部（ＤＯ、ＰＬＡＮ）

(1)事務事業の目的と指標　　新規・拡充区分

①手段(主な活動) 22年度実績(22年度に行った主な活動) (DO)	23年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)
業者選定、見積り徴収、業者決定、契約事務、請求書受付、量の照合、支払事務を行った。廃蛍光管収集用ダンボール設置、拠点収集所巡回整理、廃食用油の巡回整理を行った。ごみ収集予定表を作成し市民に分別等の周知を行った。	22年度に同じ。

① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)		(単位)	予算の主な増減の理由
⇒ア	支払事務件数	件	ごみ減量化に伴う収集運搬委託料の減
イ			

②対象(誰、何を対象にしているのか) ＊人や自然資源等	②対象指標(対象の大きさを表す指標)	(単位)
ごみ	⇒ア ごみの量	t
	イ	

③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	③成果指標(意図の達成度を表す指標)	(単位)
排出されたごみを適正に回収することにより、快適で住みやすいまちを実現する	⇒ア 適正に回収されたごみの量	t
	イ	

＊③成果指標設定の理由と23年度目標値設定の根拠

排出されたごみを適正に回収することにより、快適で住みやすいまちを実現することに繋がるため、成果指標を「適正に回収されたごみの量」とし、近年の実績を考慮し、目標値を「11,000t」と設定した。

(2)各指標･総事業費の推移			単位	20年度実績(決算)	21年度実績(決算)	22年度目標(当初予算)	22年度実績(決算)	23年度目標(当初予算)	24年度予定	25年度見込	総トータルコスト全体計画　～　年度(期間限定複数年度のみ記載)
① 活動指標		ア	件	24	24	24	24	24	24	24	
		イ									
② 対象指標		ア	t	12,728	12,551	13,000	12,660	13,000	13,000	12,000	
		イ									
③ 成果指標		ア	t	10,629	10,637	11,000	10,725	11,000	11,000	11,000	
		イ									
投入量	事業費	財源内訳 国庫支出金	千円								
		都道府県支出金	千円								
		地方債	千円								
		その他	千円	45,767	46,617	46,709	48,479	47,654	47,654	47,654	
		繰入金	千円								
		一般財源	千円	105,698	105,453	114,016	106,492	111,292	111,292	111,292	
		(Ａ) 事業費計	千円	151,465	152,070	160,725	154,971	158,946	158,946	158,946	
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	1,354	1,353	1,354	1,354	1,354	
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0	
	人件費	正規職員従事人数	人	3	4	4	7	4	4	4	
		延べ業務時間	時間	490	750	600	1,020	600	600	600	
		(B)人件費計	千円	1,960	2,985	2,388	4,202	2,472	2,472	2,472	
	トータルコスト(A)＋(B)		千円	153,425	155,055	163,113	159,173	161,418	161,418	161,418	0

事務事業名	ごみ収集事業	所属部	市民部	所属課	環境衛生課

2　評価の部（ＳＥＥ）

＊原則は22年度の事後評価、ただし複数年度事業は22年度実績を踏まえての途中評価

	項目	評価
目標達成度評価	①22年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	☑達成した　□達成しなかった　⇒【原因
	②23年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	☑目標達成見込みあり⇒【理由】　□目標達成は厳しい ⇒【理由と対策】 近年の実績、人口増等を考慮し設定しているので、目標達成の見込みがある。
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになってないか	☑向上余地がある　⇒【理由】　□向上余地がない　⇒【理由 分別を徹底することにより、さらにリサイクルを進められる。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	□他に手段がある（具体的な手段、事務事業）　☑他に手段がない　⇒【理由 □統廃合・連携ができる　⇒【理由】 □統廃合・連携ができない ⇒【理由】 類似事業なし。
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☑削減余地がある　⇒【理由】　□削減余地がない　⇒【理由 市民一人当たりのごみの量については、市民の関心が高く年々減少傾向にあるが、人口増に伴いごみの量も増加する。分別を徹底することにより削減に努める。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど）	☑削減余地がある　⇒【理由】　□削減余地がない　⇒【理由 業者選定等の事務であり、正規職員以外では難しいが、拠点収集所の巡回等については正規職員以外でも対応可能と思われる。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	□見直し余地がある　⇒【理由】　☑公平・公正である ⇒【理由 全市民のごみを収集するので公平である。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	□見直し余地がある　⇒【理由】　☑役割分担は適正である ⇒【理由】 廃棄物の処理及び清掃に関する法律等により、市が行うのは適正である。

3　評価結果の総括（ＳＥＥ）　※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

22年度は、10,725ｔのごみを回収した。家庭から出たごみを各地区のごみ一時保管所（ごみステーション）から処理施設へ収集運搬する委託業務、ごみ収集予定表の作成など、市民に対し分別の周知等も行った。またホームページにリサイクルボードを開設した。市民一人当たりのごみの量については、市民の関心が高く年々減少傾向にあるが、人口増に伴いごみの量も増加しているので分別を徹底し、されにリサイクルを進める。

4　今後の方向性（事務事業担当課案）（ＰＬＡＮ）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可

□廃止　□休止　□目的再設定　□事業統廃合・連携　☑事業のやり方改善（有効性改善）
☑事業のやり方改善（効率性改善）　□事業のやり方改善（公平性改善）
□現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）

ごみ収集運搬委託業者には、委託基準を遵守し適正な業務執行を促す。また、ごみの減量化を図るため、３Ｒの推進分別の徹底等、ＰＲ、啓発活動を継続して行う。

(2) 改革・改善による期待成果
（廃止・休止の場合は記入不要）

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上		○	
	維持			＼
	低下		＼	＼

(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策

特になし